

年間第3主日 (マタイ 4:12-23)

イエスと出会うためにあなたは何を選ぶか



年間第3主日に入りました。灰の水曜日から始まる四旬節までの、短い年間の期間です。今週の福音朗読から、「イエスと出会うために、あなたは何をしますか」ということを考えてみたいと思います。

皆さんは方向感覚に自身はおありでしょうか。わたしは方向音痴のようで、全く自信がありません。高校卒業してすぐに佐世保の親戚の家に下宿し、自動車学校に通いましたが、自動車学校の入学手続きをしに行った初日に迷子になり、真夜中に親戚のおじさんおばさんに見つけてもらったことがありました。大変心配をかけました。

苦い経験から学んだことがあります。待ち合わせをするとき、相手とうまく合流できないこともあるでしょう。合流できないのは2つの場合が考えられます。その1つ、自分が場所を指定して相手がたどり着けない場合、相手の人に「動かずに待っていてください」とお願いします。

反対に、相手が場所を指定していて、わたしがそこにたどり着けないときは、わたしのいる場所を伝えてわたしが動かないことにします。こうすれば、時間はかかるかもしれませんが、きっと迷子の側は見つけてもらって、合流できるはずです。

さてイエスは、イスラエル北部のガリラヤからご自分の活動を開始されました。今日の朗読によると、ガリラヤ周辺の町は、「暗闇」とか「死の陰の地」と表現され、そこに住む人々もマイナスのイメージで受け止められていたようです。

そこへ、イエスが光として現れてくださいました。光であるイエスと出会うことで、「暗闇に住む民」「死の陰の地に住む者」に光が射し込みました。イエスと出会うことがなければ、この地の民にいつまでも光は射し込まなかったでしょう。預言も実現しないままになります。

ですから、イエスと出会うことが、すべての始まりでした。それは、わたしたちも同じことなのだと思います。そして、イエスと出会うために、わたしたちは何かを選ばなければならないのです。この際、初めに考えた日常の体験が役に立つと思います。イエスと出会うために、わたしたちが行動に打って出るか、わたしたちの方はじっとしてイエスに見つけ出してもらおうか、どちらかを選ぶということです。

宣教開始を語る今日の朗読箇所は、イエスが積極的に動いて回る様子が描かれています。「悔い改めよ。天の国は近づいた」(4・17)と声を上げ、四人の漁師に声をかけるのもイエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられましたし、「イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた」(4・23)と結んでいます。積極的に動いて回って、見つけてもらわなければならない人々を見つけて出しているのです。

一方で、イエスはじっと待っていることもあります。サマリアの女が井戸に水を汲みに来て、イエスに声をかけられ、イエスとの出会

いを手にした話（ヨハネによる福音書第4章）を、皆さんご存じかもしれません。この女性は、井戸に佇んでいるイエスに出会って、いのちの水をいただきました。

また、黙示録では「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。」（黙3・20）とあります。イエスはあるときは戸口に立って、心の扉を開いてくれるのをずっと待っています。

または、イエスが十字架にかけられ、いのちをささげる場面も、ご自身は全く動くことなく、すべての人を引き寄せて救いにあずかせようとしています。百人隊長はこの十字架上のイエスの姿を見て、「本当に、この人は神の子だった」（マタイ27・54）と言い残しました。

イエスは、わたしたちと出会うために、あらゆることをなさいます。ガリラヤで伝道を始め、四人の漁師を弟子にして、おびただしい病人をいやしました。あるときはこのように動き回ってわたしたちと出会おうとします。またあるときは、わたしたちが通るであろう道の途中に立って、じっとそのときを待ち、出会ってくださいます。

イエスはあらゆる手段を尽くしてくださいますが、わたしたちはどうでしょうか。イエスに出会うために、「動いてみよう」と考えるでしょうか。あるいは「じっと待とう」と考えるでしょうか。

人がイエスと出会うためにどちらを選ぶかは、その人の向き不向きや、置かれた生活に左右されます。わたしはどんなに準備をしても迷子になったり失敗するので、じっと待った方がイエスに出会えるかもしれないと思っています。じっと待っているといっても、何もしないのではなく、自分の生活を続けながら、心に響く声に深く耳を傾けて、語りかける声を拾うと言ったらよいでしょうか。

ある人は、積極的に打って出ることでイエスと出会えるかもしれません。大胆に、イエスのことを人々に話して聞かせる中で、イエスがそばにいてくれて、自分を力づけたり、励ましたりしてくれるのを感じる場面があるかもしれません。こんな人は、動き出すことでイエスと出会える人だと思います。

どちらの場合も、イエスと出会うことは何より大切なことになります。イエスと出会うことで、わたしたちは光に触れ、光を感じ、光に照らされるからです。イエスという光がわたしたちに射し込むことで、わたしたちは照らされて生きる光の子になれます。

イエスはいよいよ、人々と出会い、救いを告げ知らせる宣教に打って出ました。わたしたちも自分にできる行動に打って出しましょう。心静かに待つことを選んだ人は、毎日の生活を重ねながら、「主よ来て語りかけてください」と願いましょ。活動の場に飛び込もうと決めた人は、そこで待っておられるイエスと出会わせてくださいと願いましょ。わたしたちの生活はいつも、イエスと出会うことで輝きを増すのです。